

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100042		
法人名	医療法人 翔友会		
事業所名	グループホーム千姫		
所在地	岡崎市百々西町15-9		
自己評価作成日	平成27年 8月30日	評価結果市町村受理日	平成27年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2392100042-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年に4回の家族会(食事会・夏祭り・クリスマス会・餅つきなど)を開催し、家族・利用者との関係を大切にしている。現在は運営推進会議において、認知症カフェの実現の為に話し合いをしている。事業所が地域の一人として貢献できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と多くの職員が離職し、利用者・家族には少なからず不安が漂ったが、現管理者になって2年、家族アンケートでは、殆どの項目で満足(ややも含む)との答えである。コメントでも「定期的に報告してくれるので安心」「色々な行事で利用者を喜ばせてくれる」など、称赞の声が多い。これも職員全体がまとまって一生懸命やっている事が家族に認められての結果と思われる。
 管理者は、職員から「話しやすい管理者」と慕われ、職員の意見要望に対して「やってみないとわからないから、やってみて」と職員のやる気を後押しし、チームワークが構築されている。
 運営推進会議では、地域の方の集まる場所作りとして「認知症カフェ」の提案があり、来年度の開催にむけ準備をしている。管理者・職員・地域が一丸となってサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新規職員が多く、法人の運営理念が徹底されていない。事業所独自の理念しか知らない職員も多く、今後周知し、実践に役立てたい	法人理念を展開したホームの理念をリビングに掲示している。職員ヒアリングで理念の実践について「利用者の笑顔、笑い声が聞こえるホーム作りを心がけている」と、自信に満ちた言葉を聞くことができた。	理念の周知は徹底されているので、「ホームの理念」を寄り身近にするためにも、理念を展開した「ホームの年度目標」を掲げ、実践に結びつけていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなどの行事に参加して頂いたり、散歩の際はゴミ拾いなど、地域の住民として活動している	地域行事の「祭り」や「敬老会」に参加し、お祭りには子供神輿が立ち寄り、利用者の楽しみになっている。ホームの夏祭りには近隣の子供会が参加し、利用者地域の方々の双方向の交流が行なわれている。	認知症ケアや関わり等について、地域への啓発や相談を実施する機会を設け、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割を担っていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献できるよう、認知症カフェの開催に向け、運勢推薦会議等で話を進めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告を行っている。その都度、意見をいただき実践に生かしている	運営推進会議は年6回開催され、ホームからの報告に対して要望や助言を受け、サービス向上に活かしている。総代の提案で、住民が集まる場所としての「認知症カフェ」の実現に向けた話し合いを行なっている。	会議メンバーとして利用者・知見者(他ホームの管理者等)の参加が望まれる。参加しているメンバーにとっても他ホームの情報は参考になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月相談員の来訪を受けている 運営推進会議を通してやり取りしている	運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加があり、介護相談員の受け入れもあってホームの状況は行政に理解されている。法人代表は市の介護認定委員を務め、市との協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束についての話し合いをした。 特にベッドの二点柵を行わない等徹底している 玄関は夜間以外は開放している	職員は身体拘束の弊害を熟知し、拘束をしないケアを実践している。管理者はベット柵の取り付け金具を外し、柵による「拘束0」も実践されている。業務優先になりスピーチロックに陥る職員には、その場で注意して利用者の尊厳を守る支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会があれば参加を促している 職員同士で注意し合う環境を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、制度を利用している利用者があるためその都度、必要な話し合いをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。 入居前には十分な話し合いを行い納得をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は職員が積極的に話をし、意見・要望を聞くようにしている	年1回の家族会や行事に家族参加を呼びかけたり、運営推進会議の出席を呼びかける等、意見を聴く機会を設けている。	家族アンケートでは、ここ2～3年の新規利用者の家族の足がホームから遠のいているようにみられる。遠のいている家族がホームの運営に興味を持つ様な工夫を望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に月2回のカンファレンスで意見を聞くようにしている。日ごろから意見があれば聞くようにしている	現管理者になって、職員は何でも話し合える雰囲気があり、月1回のユニット会議も活発である。職員から、「管理者に相談すると、『やってみたらいい』との回答があつてやりがいもある」との言葉を聞くことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段は本部会議やメールなどで管理者を通して対応している。必要があれば各職員とも直接話す機会はある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連絡協議会や小部会主催の研修には積極的に参加している。その他社外の研修については、掲示等して参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、小部会や同法人の他施設と交流があるが、各職員についてはあまりない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には特に細かく話し合いを行い、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、特に不安に思っている事を聞きだし、ケアプランに生かすようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いを行い、柔軟に必要なサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器を拭いたり、洗濯物を畳んだり、やれる事をする事で、共同生活者としての関係を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会などには積極的に参加して頂き、本人との関係が切れないようにしている。利用者によっては床屋や病院に連れて行ったり、頻繁に一緒に外出する家族もいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、知人・友人の面会も歓迎している。なかには、古くからの友人の手紙に返事を書く利用者がおり、職員が付き添ってポストに投函することもあった	仕事仲間や近所の知人等の訪問時にはお茶を出し、ゆっくり過ごせるように支援している。幼馴染みから手紙のくる利用者には、手紙のやり取りが継続できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事手伝いやモノ作りレクを共同で行い孤立しないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはできる限り相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の中で利用者とゆっくり話せる機会に、要望等聞くようにしている。毎日出かけたいという利用者に庭の水まき等で対応している	日常の関わりの中で傾聴し、思いを汲み取るように支援している。家族から「生活歴」を聴き、動物好きの利用者に犬や猫の「アニマルセラピー」が実現できた。	自分から余り喋らない利用者には誘い水(大正・昭和の写真・本・家族から聞いた昔の話等)を仕向け、利用者が甦る工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から話を聞いて、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人について記録を取り職員同士で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要があればその都度関係者と話し合いを行い介護計画を作成している	書式を変更したことで、家族アンケートのケアプランの項では「わかり易い」と回答者から満足評価を受けている。月1回モニタリングを行い、変更があれば家族に説明し、意見・要望を聞いている。	利用者一人ひとりを特定した個別の介護計画作成となるよう、創意・工夫をして取り組むことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とともにケアの実践状況も記録し、それをもとにカンファレンスを行い次回のケアプランに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に変化があればその都度、柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の付添で買い物にでたり喫茶店にでたり、移動パン屋を利用し、楽しんで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くは協力医が主治医となり、月に二回	ほとんどの利用者が、現在は協力医をかかりつけ医としている。月2回の協力医の往診の他、訪問歯科、歯科衛生士が月2回訪問している。協力医からの専門医受診には職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことがあればその都度、看護師に報告し適切な処置、診察を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、サマリー等で情報提供を行い、受けている。入院中は家族、医療関係者から話を聞いて退院後について相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合についての話し合いも行っている。また、必要があればその都度話し合いを行う	管理者は食事が経口摂取出切る限りはホームで対応し、重度化が進み看取り対応が必要になった時点で家族・担当医・関係者で協議していく方針である。「少々不安はあるが、担当医の対応があるのでホームで看取りたい」との職員の声もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練する機会なあまりないが、緊急時マニュアルは常備している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を行っている。緊急時には総代・民生委員にも連絡し、協力を仰ぐ体制となっている	地域の総代、民生委員も火災連絡網に登録されている。年2回の避難訓練では、通報訓練・初期消火訓練等を行っている。2階から利用者を降ろす、避難用滑り台もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び方に注意し尊厳を損ねないよう心掛けている	「共同生活を送る一員として、尊厳を大切にゆったりと関わるようにしている」との声を聞くことが出来た。個人情報に対する守秘義務の重要性を認識していることがうかがえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中での希望、思いを大切にしている 利用者により		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっており、時間で声掛けはしているが無理強いはず、意思を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を自分で選べる声掛けをしている。毎月床屋さんに来てもらい、カット・髪染めをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部委託となっている。レクリエーションとして手作りの昼食やおやつを月に一度程度楽しんでいる	外部委託の食事であるが、食器拭き・おしぼり巻き等が利用者の日課である。月1回の昼食作り・おやつ作りの際は、利用者の力量に合わせて調理参加があり、利用者の楽しみのひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託の食事は、基本的に4種類の形態からその人に合わせて選んでいる。食事量・水分摂取は記録を取り、支援に生かしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	理事長が歯科医であり月二回の歯科往診・衛生指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を作り活用している 職員二人でのトイレ介助をしている利用者もいる	トイレでの排泄を基本としている。筋力低下で車椅子使用の利用者が、日々の生活の中で立位の訓練や歩行訓練を行ない、シルバーカーを使用してトイレに行けるようになった改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前中に体操をしている 往診時、医師に排泄状況を伝え、下剤等の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者により、曜日が決まっており、主に午前中に行っているが、無理強いせず本人の意思・体調を新調している 自立の方も一人いる	週2回の入浴を基本としている。入浴拒否する利用者には無理強いせず、時間を変えたり、日にちを変えたりして柔軟な支援を行なっている。足浴やシャワー浴等で、清潔保持に努める場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室で休めるようにしている。本人の寝やすい枕を持ち込んでいる人もいる 夜間、離床センサーを使うなど安心して寝られるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はほとんど施設が管理し、医師・看護師の指示の基、服薬介助している。甘くして飲んで頂くなどの工夫をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日2時～3時はレクリエーションの時間としている。内容もその人にあった物が出来るよう毎日複数用意している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日出かけるのは難しいが、水まきなど戸外での活動で気分転換して頂いている。どうしても家に帰りたいという利用者については、後見人と相談し、定期的に帰宅外出するなど支援している	週1回の散歩の際には、近隣の公園の「ゴミ拾い」を兼ねて出掛けている。月1回の外出には、四季の花見やドライブが実践され、季節感を味わえるように支援している。家族と共に全員で出かけたアクアトは楽しい一時であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は原則施設管理としている。レクリエーションとして、移動パン屋を利用したり、買い物をする機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の返事が出せるよう、一緒に投函するなど支援している。電話については家族と相談し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は作品を飾ったり、毎月大きなカレンダーと一緒に作るなど、季節感を出すよう工夫している	廊下は広く、ゆったりと座れるソファが置いてある。リビングにはエレクoonが置かれ、生演奏も出来る。照明をLEDに変えてやさしい採光になった。壁面には職員の顔写真や利用者の行事写真、習字や作品が飾られ、清潔で居心地良く過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性や、その時の気分に配慮して食事の席を工夫している。廊下に椅子、ソファを配置し、仲の良い利用者同士で会話しやすい環境を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、ダンス・椅子等を持ってきていただき、本人すごし安い環境を作っている	利用者の馴染みの筆筒、椅子、遺影、家族写真が持ち込まれている。調査日当日も、馴染みの椅子に座ってホームで作った陶器の飾り物や作品に囲まれ、「居心地良い」と話す利用者がいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者により、手すりに近い座席にするなど、工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100042		
法人名	医療法人 翔友会		
事業所名	グループホーム千姫		
所在地	岡崎市百々西町15-9		
自己評価作成日	平成27年 8月30日	評価結果市町村受理日	平成27年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2392100042-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年に4回の家族会(食事会・夏祭り・クリスマス会・餅つきなど)を開催し、家族・利用者との関係を大切にしている。現在は運営推進会議において、認知症カフェの実現の為に話し合いをしている。事業所が地域の一人として貢献できるよう努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新規職員が多く、法人の運営理念が徹底されていない。事業所独自の理念しか知らない職員も多く、今後周知し、実践に役立てたい		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなどの行事に参加して頂いたり、散歩の際はゴミ拾いなど、地域の住民として活動している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献できるよう、認知症カフェの開催に向け、運勢推薦会議等で話を進めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告を行っている。その都度、意見をいただき実践に生かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月相談員の来訪を受けている 運営推進会議を通してやり取りしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束についての話し合いをした。 特にベッドの二点柵を行わない等徹底している 玄関は夜間以外は開放している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会があれば参加を促している 職員同士で注意し合う環境を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、制度を利用している利用者があるためその都度、必要な話し合いをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。 入居前には十分な話し合いを行い納得をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は職員が積極的に話をし、意見・要望を聞くようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に月2回のカンファレンスで意見を聞くようにしている。日ごろから意見があれば聞くようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段は本部会議やメールなどで管理者を通して対応している。必要があれば各職員とも直接話す機会はある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連絡協議会や小部会主催の研修には積極的に参加している。その他社外の研修については、掲示等して参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、小部会や同法人の他施設と交流があるが、各職員についてはあまりない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には特に細かく話し合いを行い、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、特に不安に思っている事を聞きだし、ケアプランに生かすようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いを行い、柔軟に必要なサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器を拭いたり、洗濯物を畳んだり、やれる事をする事で、共同生活者としての関係を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会などには積極的に参加して頂き、本人との関係が切れないようにしている。利用者によっては床屋や病院に連れて行ったり、頻繁に一緒に外出する家族もいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、知人・友人の面会も歓迎している。なかには、古くからの友人の手紙に返事を書く利用者がおり、職員が付き添ってポストに投函することもあった		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事手伝いやモノ作りレクを共同で行い孤立しないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはできる限り相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の中で利用者とゆっくり話せる機会に、要望等聞くようにしている。毎日出かけたいという利用者に庭の水まき等で対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から話を聞いて、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人について記録を取り職員同士で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要があればその都度関係者と話し合いを行い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とともにケアの実践状況も記録し、それをもとにカンファレンスを行い次回のケアプランに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に変化があればその都度、柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の付添で買い物にでたり喫茶店にでたり、移動パン屋を利用し、楽しんで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くは協力医が主治医となり、月に二回		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことがあればその都度、看護師に報告し適切な処置、診察を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、サマリー等で情報提供を行い、受けている。入院中は家族、医療関係者から話を聞いて退院後について相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合についての話し合いも行っている。また、必要があればその都度話し合いを行う		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練する機会なあまりないが、緊急時マニュアルは常備している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を行っている。緊急時には総代・民生委員にも連絡し、協力を仰ぐ体制となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び方に注意し尊厳を損ねないよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中での希望、思いを大切にしている 利用者により		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっており、時間で声掛けはしているが無理強いはず、意思を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を自分で選べる声掛けをしている。毎月床屋さんに来てもらい、カット・髪染めをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部委託となっている。レクリエーションとして手作りの昼食やおやつを月に一度程度楽しんでいる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託の食事は、基本的に4種類の形態からその人に合わせて選んでいる。食事量・水分摂取は記録を取り、支援に生かしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	理事長が歯科医であり月二回の歯科往診・衛生指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を作り活用している 職員二人でのトイレ介助をしている利用者もいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前中に体操をしている 往診時、医師に排泄状況を伝え、下剤等の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者により、曜日が決まっており、主に午前中に行っているが、無理強いせず本人の意思・体調を新調している 自立の方も一名いる		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室で休めるようにしている。本人の寝やすい枕を持ち込んでいる人もいる 夜間、離床センサーを使うなど安心して寝られるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はほとんど施設が管理し、医師・看護師の指示の基、服薬介助している。甘くして飲んで頂くなどの工夫をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日2時～3時はレクリエーションの時間としている。内容もその人にあった物が出来るよう毎日複数種用意している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日出かけるのは難しいが、水まきなど戸外での活動で気分転換して頂いている。どうしても家に帰りたいという利用者については、後見人と相談し、定期的に帰宅外出するなど支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は原則施設管理としている。レクリエーションとして、移動パン屋を利用したり、買い物をする機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の返事が出せるよう、一緒に投函するなど支援している。電話については家族と相談し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は作品を飾ったり、毎月大きなカレンダーと一緒に作るなど、季節感を出すよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性や、その時の気分に配慮して食事の席を工夫している。廊下に椅子、ソファを配置し、仲の良い利用者同士で会話しやすい環境を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、タンス・椅子等を持ってきていただき、本人すごし安い環境を作っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者により、手すりに近い座席にするなど、工夫している		